

ひかり

2021年2月号



日本聖公会 三光教会

第690号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

Cross of Iona

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。

(マタイによる福音書 6:6)

再び十字架を立てる II

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共に
おられる。… わたしは主のはしのためです。
お言葉どおり、この身に成りますように。」
(ルカ1:28、38)

司祭 ヨナ成 成鍾
ンシヨシヨシ

前回、三光教会のこれからの100年の宣教のために、改めて十字架を立て直すことが求められるけれども、そのことをケルト教会の十字架を用いて考えたいということを示しました。ケルト十字架の「縦の軸、横の軸、輪」という三つの部分で構成されますが、「縦の軸」は神様との繋がりのことを、「横の軸」は世の中との繋がりのことを、そして「輪」は一致と循環のことを意味します。

言うまでもありませんが「縦の軸、横の軸、輪」の中、一つだけでも欠如されますと十字架としては成り立ちません。礼拝／お祈り／聖書の黙想／教育などを象徴する「縦の軸」だけでも、伝道／奉仕／社会宣教／改革などを象徴する「横の軸」だけでも十字架とは言えないわけです。両者を統合し一致をもたらず「輪」も十字架をより完全なものとするために

は欠かせない部分です。ところが、ここで考えなくてはならないことが一つあります。それは十字架を地に立てるためには「縦の軸、横の軸、輪」を繋がなくてはならないし、さらにそのためには三者を結び合わせる繋ぎ目が求められるという事です。つまり、横の軸と縦の軸が合う部分を、また両軸と輪が合う部分を繋ぐために、それぞれをくり抜いて合体させるか若しくは合う部分に釘を打ち込まなくてはならない、ということになるわけです。

それでは、ここで言う繋ぎ目、つまり十字架を立てるために欠かさない繋ぎ目とは何を象徴するのでしょうか。全てのキリスト者は繋ぎ目として召されていると言えます。殊に聖職者とは、十字架を立てるために横の軸と縦の軸を合わせる繋ぎ目として召されている者であり、教会委員会を始めとする諸委員会、信徒奉事者、アコライト、聖歌隊などの諸奉仕団体とは、十字架に一致をもたらずために両軸と輪を合わせる繋ぎ目の役割を担う者だと考えられます。教会という十字架を立てるために召されている聖職、若しくは教会委員

員や諸奉仕団体が繋ぎ目になることを犠牲だと言うこともあるかと思えます。繋ぎ目の役割を担う過程においては、ひとえに御心に沿って自分の価値基準や判断などの考えをくり抜いたり、時おり心に釘を打ち込まれたりすることもあるからです。

しかしキリスト教の伝統において、そのような犠牲のことは値高い恵みや祝福として理解されてきました。例えば、聖母マリアの生き方こそそれを物語っています。ことに受胎告知の「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。… わたしは主のはしのためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」という御言葉は、今日の私たちに多くのことを示してくれます。

信仰の先輩にならって、私たちがそれぞれ十字架の繋ぎ目としての役割を担えるとき、三光教会という名前で旗の台の丘に立てられた主の十字架は、再び福音の光を輝かせ、世に希望をもたらずようになるのではないかと思います。ご用のために召されました一人ひとりに神様からの力と智慧が豊かにありますようにお祈り致します。

